



## 【第46期陸曹特技課程「准看護師」入校式】

令和3年4月2日

4月2日（金）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 高橋 1 佐）は、北部方面総監部から医務官森西 1 佐、北部方面最先任上級曹長金子准尉のご臨席を賜り、多くの志願者の中から選抜され、北は北海道（小清水町）から南は沖縄（与那国）の全国から集まった第46期初級陸曹特技課程「准看護師」27名（男性15名、女性12名）の入校式を挙行了。今年から陸曹の入校も認められるようになり、学生代表の井川 3 曹は同期を代表して決意を込めた力強い声で申告を実施した。

入校式において病院長（鈴木陸将）は、「本課程で養成される准看護師たる初級陸曹は、第一線から治療・後送の各段階において、傷病者救護・看護を担うという重要な役割が期待されている。」と話し、学生に「積極的に学べ」「仲間を大切に」の2つを要望し、「陸上自衛隊の准看護師たる救護陸曹の地位・役割を認識し、与えられた365日24時間を自身の心身の練磨のために有意義に、そして積極的に勉学に励んでほしい。また、本教育を通じて苦労を分かち合うとともに切磋琢磨し、多くの理解し合える仲間を作り、立派な衛生救護陸曹になってもらいたい。」と訓示した。

また准看護学院長は、「自ら学び、鍛えよ心と体」を要望し、「准看護師としての専門的識能の修得及び衛生科隊員としての資質のかん養という重要な目的に臨む姿勢として、常に仲間を思いやることができる強くて優しい心を育み、受動的な学びではなく、積極的に自ら求めて学び2年間でできるだけ多くの看護知識や技術を自分のものにしてほしい。」と式辞を述べた。

北部方面総監部医務官（森西 1 佐）は、「准看護師としての専門的識能、衛生救護陸曹として必要な識能を修得するとともに、衛生科隊員として必要な資質のかん養するという目的を達成しなければなりません。厳しい訓練もあれば、聞き慣れない医療用語の理解に苦しんだり、実習の現場で戸惑うこともあるでしょう。」と話し、学生に「常に同期とともに」を要望し、「2年後、札幌准看同期の絆を確固たるものにし、学生全員が目的を達成し、頼れる准看護師、衛生救護陸曹として巣立っていくことを楽しみにしている。」と祝辞を賜った。

いただいた訓示等における激励の言葉を心に刻み、決意を新たに学生27名は准看護師となるべく教育に臨む。



決意を胸に入校式に臨む学生



病院長 訓示



病院長の訓示を聞く学生



准看護学院長 式辞



北部方面総監部医務官 祝辞



集合写真